

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 21 日

所属	国際教養学部	職名	准教授	氏名	藤田 輔
研究課題	途上国の経済開発のための日本や国際社会の役割に関する多角的考察				
研究キーワード	貿易，直接投資，援助，インフラ，日系企業，国際機関		当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	1. 貧困をなくそう	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	16. 平和と公正をすべての人に	

1. 研究成果の概要

・アジア途上国の中でも，東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国であるインドネシアに焦点を絞り，同国の経済協力開発機構（OECD）への加盟申請を巡る政治的・経済的課題について，文献調査等を通じて考察を図った結果，2024 年 7 月に『千葉商大論叢』に論文を寄稿，翌年 2 月には日本貿易学会の部会において研究発表をそれぞれ行い，成果を公表した。

・同じく，アジア途上国かつ ASEAN 加盟国であるフィリピンについても，海外送金依存と物品輸出の不振という同国経済の脆弱性に着目し，その解消策として，外国直接投資（FDI）誘致のための環境整備における日本の役割について考察を図り，2025 年 3 月に『千葉商大論叢』に論文を寄稿し，成果を公表した。なお，本研究にあたり，文献調査に加えて，2024 年 9 月 9～13 日にフィリピン・マニラを訪問し，関連各所で情報収集を行うためのフィールドワークも実施した。

2. 著書・論文・学会発表等

【著書・論文（査読なし）】

・「インドネシアの OECD 加盟申請に関する諸考察：アジアと中所得国の一員の立場の視点から」千葉商科大学〔編〕『千葉商大論叢・第 62 巻第 1 号』，pp.161-184，2024 年 7 月

・「フィリピン経済の脆弱性とその解消策に関する諸考察：FDI 誘致のための環境整備における日本の役割の再考」千葉商科大学〔編〕『千葉商大論叢・第 62 巻第 3 号』，pp.159-183，2025 年 3 月

【学会発表等】

・「OECD の方向性のあり方に関する再考：「拡大路線」と「原点回帰」の狭間の中で」国府台学会研究会・第 14 回，2024 年 5 月，於：千葉商科大学

・「インドネシアの OECD 加盟申請に関する諸考察：アジアと中所得国の一員の立場の視点から」日本貿易学会・貿易論／国際経済専門研究部会，2025 年 2 月，オンライン

3. 主な経費

- ・上述のとおり，フィリピン・マニラへのフィールドワークのための旅費及びその他経費を支出した。
- ・その他，研究活動に付随する消耗品費（書籍，ソフトウェア等）や学会年会費も相応に発生した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし。